

報告事項キ

平成26年度第2回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

平成26年度第2回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について  
別紙のとおり報告します。

平成27年3月16日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成26年度第2回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

1 議題

とっとり県民カレッジのあり方及び今後の生涯学習推進施策について（諮問事項）

(1) これまでの経過

平成26年12月22日（月）定例教育委員会議案提出（第5号）

平成27年2月3日（火）第1回会議開催（県民カレッジを含む県施策の状況説明、意見交換）

平成27年3月4日（水）第2回会議開催（主に県の役割について議論）

(2) 意見の概要（第一回は教育審議会での発言も含む）

区分	主な意見
今後、重要性が増す要素	<p>(第一回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信、コーディネート（学びと成果を活かす場のマッチング等）はますます重要になる。</li> <li>・検討する上で重要なのは、地域の魅力や文化資源を顕在化させること、学び合うこと、次世代につなげること。</li> </ul>
県の役割について	<p>(第一回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県は講座を直営開催することより市町村の舵取り役を担うべき。市町村講座や公民館の方向性を示すほか、専門職員の資質向上など。</li> <li>・社会教育における県の役割は「種まき」。県が県民向けに講座を行うよりは、研修の場を設けるといった人材育成に注力すべき。</li> </ul> <p>(第二回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の企画力向上等の支援や社会教育主事のあり方を見直すなどが必要</li> <li>・講座開催より地域の様々な活動の旗振り役（人材）を育成すべき。</li> <li>・保護者も子ども達の見守りなどにおいて地域とのつながりを求めている。上の世代の力も借りたい。保護者を助け、支援する人材が必要。</li> <li>・県は旗を振るだけでなく、どう参加してもらうか、（これまでにない層も含め）フォロワーをどう増やすかの仕組みづくりも担う必要がある。</li> </ul>
学びを活かす場の創出、学びを活かしたくなるしくみづくり	<p>(第一回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のモチベーションを如何に高めるかを考えること。参加者が主体的に関わっていく仕組みにすることが重要</li> <li>・サービスを受ける側（イベント参加）には人が集まるが、サービスする側（イベント運営・指導側）には集まらない。指導をお願いしても拒まれることが多い。誰もが忙しいが、大人が地域社会に参加するためにどうすればいいか考えなければならない。</li> </ul>

(3) 今後の予定

時期		生涯学習分科会	事務局
5月	第3回会議	答申とりまとめに向けての検討	
6月	—	先進地視察	
7月	第4回会議	答申とりまとめに向けての検討	
11月	第5回会議	答申とりまとめ	
12月以降	—		答申を受け具体的施策を検討

## 2 報告事項

「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動等に関する施策の平成27年度事業予定」について説明した。

### 〈委員名簿〉

氏名	所属・職名等	備考 (第2回会議)
伊澤 悦子	日本ボーイスカウト鳥取連盟鳥取2団ボーイ隊隊長	
市橋 幸代	湯梨浜町立松崎幼稚園長	
大堀 貴士	NPO 法人ハーモニーカレッジ理事長	(欠)
岡崎 誠	鳥取環境大学教授	
木村 京子	鳥取市立美保小学校長	
近藤 剛	鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授	会長
田中 朝子	鳥取県連合婦人会長	
徳吉 雅人	倉吉市明倫公民館長	副会長
中村 美香	鳥取県連合青年団長	(欠)
長尾 志保	鳥取県PTA協議会ブロック理事	
福井 伸一郎	倉吉市教育委員会教育長	(欠)
森岡 祐美子	株式会社山陰放送ラジオ総局放送制作部	
山本 幸子	鳥取市社会福祉審議会委員	